



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成27年2月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	166,054	4.1	10,580	19.0	10,969	19.2	5,984	△43.0
26年3月期第3四半期	159,519	2.9	8,891	△2.9	9,205	△0.4	10,503	117.6

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 8,932百万円 (△61.5%) 26年3月期第3四半期 23,207百万円 (324.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	29.74	—
26年3月期第3四半期	51.86	51.85

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	264,063	153,531	48.6
26年3月期	238,577	146,422	50.9

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 128,230百万円 26年3月期 121,431百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	11.00	11.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 9円00銭 特別配当 2円00銭

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	218,000	4.0	9,800	3.3	10,000	0.9	5,300	△48.4	26.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	217,699,743 株	26年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	16,473,608 株	26年3月期	16,466,424 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	201,228,103 株	26年3月期3Q	202,553,399 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成26年11月5日発表の連結業績予想の見直しは行っておりません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

## ○第3四半期決算短信補足資料

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、日銀の追加緩和後の急激な円安の進展により、輸出企業を中心とした企業業績の改善は見込まれるものの、輸入原材料の価格上昇にともなう内需型企業の収益への影響が懸念されます。また、消費税増税後の個人消費の落ち込みに加え、円安による食料品などの値上げの影響もあり、個人消費の回復にはばらつきが見られます。一方海外では、米国の景気は堅調に推移しておりますが、ヨーロッパや新興国の経済成長にはかげりもみられ、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく」ことを基本方針とする3カ年の中期経営計画「TaKaRaグループ中期経営計画2016」のもと、更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒類事業においても顧客企業に対し、差異化されたユーザーニーズに応える商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、海外日本食材卸事業では、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業成長を加速させることを目指しております。

バイオ事業では、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、バイオ産業支援事業、遺伝子医療事業、医食品バイオ事業の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前連結会計年度に連結した子会社の売上が新たに加わったこと、円安による海外子会社の売上の増加などにより、前年同期比104.1%の166,054百万円と増収となりました。また、売上高の増加により、売上総利益も前年同期比105.8%の65,078百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、新規連結や円安の影響も含めた人件費などの増加により前年同期比103.6%の54,497百万円と増加いたしました。売上総利益の伸びに比べ抑制することができましたので、営業利益も前年同期比119.0%の10,580百万円と増益となりました。営業外損益では、受取配当金の増加や、持分法による投資利益の増加などがありましたので、経常利益も前年同期比119.2%の10,969百万円と増益となりました。

特別損益では、前年にタカラバイオ株式会社株式の一部売却による関係会社株式売却益9,261百万円があったため、特別利益が前年同期に比べ大幅に減少いたしましたので、税金等調整前四半期純利益は前年同期比58.4%の10,752百万円となり、四半期純利益も同57.0%の5,984百万円とともに大幅な減益となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

## [宝酒造グループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新たに連結子会社としたCOMINPORT DISTRIBUCIÓN S.L.、及び、前第3四半期連結会計期間から連結子会社としているTAZAKI FOODS LTD.の売上高に加え、円安による海外子会社の円貨換算売上高の増加により、前年同期比103.8%の146,178百万円と増収となりました。

品種別には、飲用甲類焼酎の減少が大きかった焼酎が、大幅な減収となりました。一方、平成25年9月より販売ルートを広げた「松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒」が大きく伸長したことにより、清酒は増収となりました。また「焼酎ハイボール」が引き続き好調に推移したソフトアルコール飲料は、「直搾り」が大きく減少したことなどにより減収となりましたが、ワインやウイスキーが好調に推移したその他酒類は増収となりました。以上の結果、焼酎の減収の影響が大きく、酒類全体では減収となりました。

この他、調味料、原料用アルコール等は若干の増収となりましたが、物流は減収となりました。さらに、上記新規連結会社の売上が加わった海外日本食材卸が、円安の影響も含め大幅な増収となり、当セグメント全体の増収に貢献いたしました。

売上原価は、円安による原材料の価格上昇はありましたが、宝酒造株式会社の商品構成の変化による原価率の低下や、海外日本食材卸の原価率改善により、前年同期比102.9%の91,977百万円にとどまったため、売上総利益は前年同期比105.4%の54,200百万円と増益となりました。販売費及び一般管理費も新規連結による運送費、人件費、管理費等の増加により、前年同期比103.1%の45,764百万円となりましたが、セグメント営業利益は、前年同期比119.8%の8,435百万円と増益となりました。

## [タカラバイオグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、バイオ産業支援事業では、主力製品である研究用試薬が、円安の影響もあり大きく増加し、理化学機器も増加いたしました。研究受託サービスは減少いたしました。医食品バイオ事業では健康食品及びキノコの売上高がともに増加いたしました。以上の結果、当セグメントの売上高は前年同期比107.0%の17,293百万円となりました。

売上原価は、前年同期比104.5%の7,839百万円となりましたので、売上総利益は、前年同期比109.1%の9,453百万円となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費等が減少いたしましたものの、人件費及び研究開発費等の

増加により、前年同期比105.6%の8,190百万円となりました。この結果、セグメント営業利益は、前年同期比139.1%の1,263百万円と増益となりました。

[宝ヘルスケア]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、注力しているフコイダン関連製品やイソサミジン関連製品が好調に推移したことに加え、化粧品OEMの売上増加もあり、前年同期比119.8%の1,230百万円と増収となりました。原価率の高いOEM商品の売上増加により、原価率は若干上昇しましたが、売上総利益も増加し、広告宣伝費の増加などによる販売費及び一般管理費の増加を吸収し、セグメント営業利益は前年同期比589.3%の30百万円と増益となりました。

[その他]

報告セグメント以外の「その他」のセグメントの売上高は前年同期比97.7%の5,412百万円となり、営業利益も前年同期比51.9%の104百万円と減益となりました。

品種別販売実績

セグメントの名称		前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	前年同期比
	品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ				
	焼酎	51,992	49,675	95.5
	清酒	18,767	19,817	105.6
	ソフトアルコール飲料	21,228	20,249	95.4
	その他酒類	9,299	10,128	108.9
	酒類計	101,288	99,870	98.6
	本みりん	11,655	11,368	97.5
	その他調味料	6,658	6,969	104.7
	調味料計	18,314	18,338	100.1
	原料用アルコール等	5,065	5,378	106.2
	物流	8,937	8,671	97.0
	海外日本食材卸	6,039	12,747	211.1
	その他	1,205	1,171	97.1
	計	140,850	146,178	103.8
タカラバイオグループ				
		16,167	17,293	107.0
宝ヘルスケア				
		1,027	1,230	119.8
その他				
		5,541	5,412	97.7
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去				
		△4,067	△4,060	—
合計				
		159,519	166,054	104.1

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は264,063百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,486百万円増加いたしました。流動資産は、現金及び預金の減少がありましたが、例年の年末繁忙期による受取手形及び売掛金の増加や、余資の運用としての有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に比べ19,485百万円増加し、170,037百万円となりました。固定資産では、設備投資による有形固定資産の増加や、上場株式の時価上昇による投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に比べ6,000百万円増加し、94,025百万円となりました。

負債合計は110,532百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,377百万円の増加となりました。主な増減は長期借入金の増加や未払酒税の増加、未払法人税等の減少であります。

純資産は、利益剰余金の増加に加え、その他有価証券評価差額金が増加したため、前連結会計年度末に比べ7,108百万円増加し、153,531百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の連結業績につきましては、海外事業が円安の影響もあって好調に推移していることから、当第3四半期連結累計期間を終えた時点で、売上高はほぼ期初計画通り、営業利益、経常利益及び四半期純利益は期初計画を上回る進捗となっております。今後の業績動向や、予想される法人税率の変更の影響等もあわせ、通期業績の予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

なお、連結子会社であるタカラバイオ株式会社（コード番号4974 東証マザーズ）が平成27年1月30日に公表いたしました「業績予想の修正、特別損失の計上および繰延税金資産の取崩しに関するお知らせ」において、同社の通期連結業績予想を修正しております。詳細は同お知らせをご参照下さい。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が313百万円減少し、投資その他の資産のその他が359百万円、利益剰余金が414百万円、少数株主持分が16百万円、それぞれ増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

連結子会社であるタカラバイオ株式会社は、有形固定資産の減価償却の方法に主として定率法を採用してまいりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、同社設立から12年が経過し、また、当連結会計年度より遺伝子・細胞プロセッシングセンター等が稼働することから、研究開発活動及び生産活動において有形固定資産の安定的な使用が見込まれる状況になったことを受け、償却方法を再検討した結果、定率法から定額法に変更することが合理的であると判断したことによるものであります。

この変更により、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ234百万円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	41,015	34,101
受取手形及び売掛金	51,901	67,735
有価証券	21,534	30,288
商品及び製品	26,729	27,780
仕掛品	908	1,317
原材料及び貯蔵品	3,351	3,425
その他	5,254	5,536
貸倒引当金	△143	△148
流動資産合計	150,551	170,037
固定資産		
有形固定資産	47,976	51,260
無形固定資産		
のれん	7,539	7,399
その他	4,123	4,096
無形固定資産合計	11,662	11,496
投資その他の資産		
投資有価証券	23,532	26,045
その他	5,077	5,417
貸倒引当金	△223	△193
投資その他の資産合計	28,386	31,269
固定資産合計	88,025	94,025
資産合計	238,577	264,063
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,416	16,446
短期借入金	5,914	5,616
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	8,376	12,826
未払費用	4,480	5,772
未払法人税等	5,621	2,234
販売促進引当金	1,795	2,035
その他の引当金	2,103	1,308
その他	5,953	9,895
流動負債合計	48,663	61,136
固定負債		
社債	25,000	20,000
長期借入金	310	10,371
退職給付に係る負債	6,943	6,757
長期預り金	5,591	5,644
その他	5,644	6,622
固定負債合計	43,491	49,395
負債合計	92,154	110,532

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,196	3,196
利益剰余金	104,739	108,925
自己株式	△9,931	△9,937
株主資本合計	111,230	115,410
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,941	7,544
繰延ヘッジ損益	279	709
為替換算調整勘定	2,894	3,617
退職給付に係る調整累計額	1,085	947
その他の包括利益累計額合計	10,200	12,819
少数株主持分	24,991	25,300
純資産合計	146,422	153,531
負債純資産合計	238,577	264,063



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	159,519	166,054
売上原価	98,027	100,975
売上総利益	61,491	65,078
販売費及び一般管理費	52,599	54,497
営業利益	8,891	10,580
営業外収益		
受取配当金	357	414
その他	445	542
営業外収益合計	802	957
営業外費用		
支払利息	340	347
その他	147	220
営業外費用合計	488	568
経常利益	9,205	10,969
特別利益		
固定資産売却益	13	62
投資有価証券売却益	0	249
関係会社株式売却益	9,261	—
その他	179	—
特別利益合計	9,453	312
特別損失		
固定資産除売却損	103	226
減損損失	—	247
土地譲渡損	121	—
その他	36	55
特別損失合計	262	529
税金等調整前四半期純利益	18,397	10,752
法人税、住民税及び事業税	7,151	3,578
法人税等調整額	422	1,009
法人税等合計	7,574	4,588
少数株主損益調整前四半期純利益	10,823	6,163
少数株主利益	319	179
四半期純利益	10,503	5,984

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,823	6,163
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,489	1,602
繰延ヘッジ損益	387	426
為替換算調整勘定	3,429	776
退職給付に係る調整額	—	△138
持分法適用会社に対する持分相当額	230	101
持分変動差額	5,847	—
その他の包括利益合計	12,384	2,768
四半期包括利益	23,207	8,932
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,164	8,602
少数株主に係る四半期包括利益	1,042	329

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	140,593	15,711	1,025	157,330	1,866	159,196	322	159,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	257	455	1	714	3,674	4,389	△4,389	—
計	140,850	16,167	1,027	158,045	5,541	163,586	△4,067	159,519
セグメント利益	7,041	908	5	7,955	201	8,156	734	8,891

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。
- (2) セグメント利益は、セグメント間取引消去58百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益675百万円であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
記載すべき重要な事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	145,928	16,708	1,228	163,864	1,848	165,712	341	166,054
セグメント間の内部 売上高又は振替高	250	585	1	836	3,564	4,401	△4,401	—
計	146,178	17,293	1,230	164,701	5,412	170,114	△4,060	166,054
セグメント利益	8,435	1,263	30	9,729	104	9,833	746	10,580

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。
- (1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。
- (2) セグメント利益は、セグメント間取引消去46百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益700百万円であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産の減価償却の方法については、従来、連結子会社のタカラバイオ株式会社は、主として定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「タカラバイオグループ」で234百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、遊休資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額したことにより、247百万円の減損損失を計上しております。